

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公)

公表:令和 6 年 2 月 29 日

事業所名 放課後等デイサービス めだかのいえ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			子供が成長しているため、スペースの確保は必要と感じている
	2	職員の配置数は適切である	○			安全を考慮した人員配置。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			入り口・玄関などに段差はあるが、子供が利用する分には問題ないように思える。車椅子の入室は難しい。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			月に一度のミーティングで気になることを話し合い、支援する中で支援の確認をしていく流れがある。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			現在実施しているため、結果をもとに今後話し合う予定。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			事業所HPIに公開予定。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		第三者評価はしていない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			年に2回、職員研修の機会を設けている 毎月のミーティング。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			インフルエンザ・コロナ感染等の対策を講じた上で、子供達が楽しく過ごせる様に、マンネリ化しない活動が行えていると思う。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			日々の記録をしっかりとることはもちろん、正規職員やパート職員の間でミーティングを行い、支援の検討、改善を考えている。
	18	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○			

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公)

公表:令和 6 年 2 月 29 日

事業所名 放課後等デイサービス めだかのいえ

関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○			
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている				該当者なし。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している				まだ実例がありません。移行する時は情報を提供できるように準備をしていきたい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○			公園遊びの際に、近所の子供達とボール遊びや追いかけっこ、大縄跳びをしたりして遊ぶことがある。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している				機会があれば今後参加していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			連絡帳を活用し、日頃の内容は伝えられており、別途必要と感じるときは、電話連絡や送迎時でも伝えている。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			ペアレントトレーニング等はないが、必要な場合または必要だと感じている保護者には話をしている。	
保護者 への説明 責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		親子参加行事で保護者同士の関わりの場を設けたりしている。時には関わりをスムーズに行えるように、職員が保護者の間に入ったりしている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			
	35	個人情報に十分注意している	○			
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			絵カードを利用し、視覚的支援も行っている。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公)

公表:令和 6 年 2 月 29 日

事業所名 放課後等デイサービス めだかのいえ

	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		コロナ禍の影響で出来ていない。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			年に2回。 R6. 3月に実施予定。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			年に1度、虐待防止研修実施。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している				該当者なし。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている				アレルギーを持った児童がいない。該当者なし。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公)

公表:令和 6 年 2 月 29 日

事業所名 放課後等デイサービス めだかのいえ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			子供が成長しているため、スペースの確保は必要と感じている。
	2	職員の配置数は適切である	○			安全を考慮した人員配置。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			入り口・玄関などに段差はあるが、子供が利用する分には問題ないように思える。車椅子の入室は難しい。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			月に一度のミーティングで気になることを話し合い、支援の中で支援の確認をしていく流れがある。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			現在実施しているため、結果をもとに今後話し合う予定。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			事業所HPIに公開予定。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		第三者評価はしていない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			年に2回、職員研修の機会を設けている 毎月のミーティング。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			インフルエンザ・コロナ感染等の対策を講じた上で、子供達が楽しく過ごせる様に、マンネリ化しない活動が行えていると思う。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			日々の記録をしっかりすることはもちろん、正規職員やパート職員の間でミーティングを行い、支援の検討、改善を考えている。
	18	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○			

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公)

公表:令和 6 年 2 月 29 日

事業所名 放課後等デイサービス めだかのいえ

関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○			
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている				該当者なし。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している				まだ実例がありません。移行する時は情報を提供できるように準備をしていきたい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○			公園遊びの際に、近所の子供達とボール遊びや追いかけっこ、大縄跳びをしたりして遊ぶことがある。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している				機会があれば今後参加していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			連絡帳を活用し、日頃の内容は伝えられており、別途必要と感じるときは、電話連絡や送迎時でも伝えている。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			ペアレントトレーニング等は行っていないが、必要な場合または必要だと感じている保護者には話している。	
保護者 への説明 責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		親子参加行事で保護者同士の関わりの場を設けたりしている。時には関わりをスムーズに行えるように、職員が保護者の間に入ったりしている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			
	35	個人情報に十分注意している	○			
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			絵カードを利用し、視覚的支援も行っている。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公)

公表:令和 6 年 2 月 29 日

事業所名 放課後等デイサービス めだかのいえ

	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		コロナ禍の影響で出来ていない。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			年に2回。 R6. 3月に実施予定。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			年に1度、虐待防止研修実施。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している				該当者なし。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている				アレルギーを持った児童がいない。該当者なし。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公)

公表:令和 6 年 2 月 29 日

事業所名 放課後等デイサービス めだかのいえ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			子供が成長しているため、スペースの確保は必要と感じている
	2	職員の配置数は適切である	○			安全を考慮した人員配置。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			入り口・玄関などに段差はあるが、子供が利用する分には問題ないように思える。車椅子の入室は難しい。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			月に一度のミーティングで気になることを話し合い、支援する中で支援の確認をしていく流れがある。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			現在実施しているため、結果をもとに今後話し合う予定。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			事業所HPIに公開予定。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		第三者評価はしていない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			年に2回、職員研修の機会を設けている 毎月のミーティング。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			インフルエンザ・コロナ感染等の対策を講じた上で、子供達が楽しく過ごせる様に、マンネリ化しない活動が行えていると思う。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			日々の記録をしっかりとることはもちろん、正規職員やパート職員の間でミーティングを行い、支援の検討、改善を考えている。
18	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○				
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○				

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公)

公表:令和 6 年 2 月 29 日

事業所名 放課後等デイサービス めだかのいえ

関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○			
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている				該当者なし。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している				まだ実例がありません。移行する時は情報を提供できるように準備をしていきたい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○			公園遊びの際に、近所の子供達とボール遊びや追いかけっこ、大縄跳びをしたりして遊ぶことがある。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している				機会があれば今後参加していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			連絡帳を活用し、日頃の内容は伝えられており、別途必要と感じるときは、電話連絡や送迎時でも伝えている。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			ペアレントトレーニング等は行っていないが、必要な場合または必要だと感じている保護者には話している。	
保護者 への説明 責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		親子参加行事で保護者同士の関わりの場を設けたりしている。時には関わりをスムーズに行えるように、職員が保護者の間に入ったりしている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			
	35	個人情報に十分注意している	○			
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			絵カードを利用し、視覚的支援も行っている。



放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公)

公表:令和 6 年 2 月 29 日

事業所名 放課後等デイサービス めだかのいえ

	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		コロナ禍の影響で出来ていない。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			年に2回。 R6. 3月に実施予定。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			年に1度、虐待防止研修実施。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している				該当者なし。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている				アレルギーを持った児童がいない。該当者なし。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			